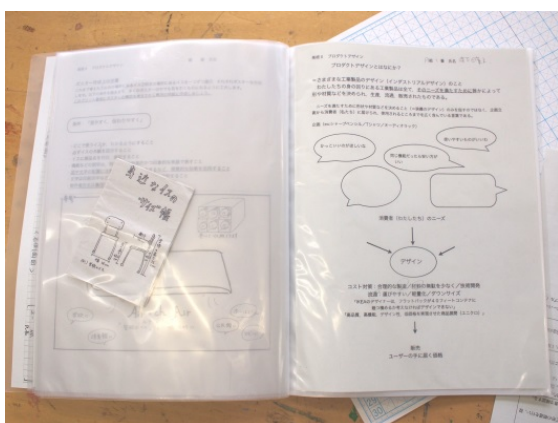


千葉県立検見川高等学校 塚内先生『イスのデザイン』

千葉県立松尾高等学校 久米 智美

初任者として、皆様にご挨拶を申し上げてから早4年。毎年、この公開授業を楽しみに、欠かさず出席して参りました。題材から授業展開まで様々で、ここから新しい発見があり、アイデアをいただき、またそれまで抱えていた問題点の解決へのきっかけを得る、貴重な機会となっております。今回の公開授業を担当されました、塚内先生の『イスのデザイン』もまた、今後自身の授業に是非取り入れていきたいポイントが目白押しの、大変実のある研修であったことをご報告いたします。

いただいた指導計画では全16時間中の11,12時間目に当たる、『ペーパーマケットから簡易版設計図の作成』の授業を見学いたしました。とはいえ、導入からこれまでの流れも、教室内の掲示物や生徒がファイリングしたプリントからうかがい知ることができました。その中に、イスとは何かを掘り下げていくため、身近なところや公共の場にあるイスを調べ、座るという行為にはどういった条件や状況があるのかを考えるといった内容の学習がありました。夏の研修でスプーン制作に参加した際にも、導入ではまずスプーンとは何か、ブレインストーミングを行いました。これらの経験を通して、ただ手順を確認して制作するだけが美術の授業ではなく、何のために制作するのかというその目的・目標を学ぶ時間を十分にとることの必要性を強く感じました。そのものの本質を知ること、そこからより自由な発想が生まれ、また日頃から目にする日常の中にもまた美術（デザイン）は存在しているということの再確認にもつながるのだと思います。



さて、本時の内容に話を戻しますと、イスの簡易版設計図の制作が今回のメインとなります。最初の15分ほどをつかって三面図についての説明があり、初めは、正直に申し上げますと自分でも制作は少々難しそう…と感じました。しかし塚内先生は大きな見本と参考作品を用いて大変わかりやすく説明されており、なおかつ生徒は事前にマケットを制作していたこともあって、すんなりと理解できていたようでした。マケットを制作してから設

計図をかく、という手順は、まずは手を動かすことで生徒に飽きさせないという工夫から考えられた授業展開でした。イスを安定させるため、横揺れする場合は補強する、といったアドバイスもあり、プロダクトデザインにおいて重要な実用性もきちんと考慮されていました。一方で、実用性を重視することで発想の幅が狭められる心配もあります。しかし、事前のポスター制作では、素材を限定せずより自由な発想から生まれるアイデアも多く見られ、生徒はイスという1つの課題を両面からバランスよく学ぶことができていました。

プロダクトデザインを学ぶことで、工業製品そのものの成り立ちを知り、そこから問題解決の視点を心得、相手に正確に伝えるための技術を用いて制作に取り組むことができます。後の意見交換では、より実践的に、作った後売って買われることまでを想定して、コスト面も考慮することや、チーム制作をすると面白いのではないかといった意見もありました。将来、社会で役立つ力とは、こうした学習からこそ養われていくのだと思います。塚内先生、すばらしい授業見学のお機会をいただき、本当にありがとうございました！この公開授業に参加して、今後は美術教育によって培われるものの、多くの面を知り、学んでもらうために、よりいっそう授業研究に励んでいきたいと決意を新たにしました。

